

# 国語科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00066566">https://doi.org/10.24517/00066566</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 国語科

谷口 仁

橋本 正恵

松原 美佳

助言者 折川 司（金沢大学）

## 1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

昨年度より本校では、研究主題を「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成」と定め、Society5.0という新しい社会を見据え、実社会とのつながりのある授業実践やSTEAM教育の実践を試みてきた。その取組の中で、より実社会の問題解決場面に近いプロジェクトを作り出す手立てとして、STEAM教育のAをLiberal Artsと捉えることとし、STEM領域以外の教科等も協働して資質・能力の育成に当たることができるよう共通理解を図り、全ての教科等が連携して実践に取り組んできた。

さらに、本年度より研究の副題が「新設教科『創造デザイン科』の提言とSTEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトの作成を目指して」となった。これは実社会とのつながりをさらに意識し、複数の教科で多面的・多角的に学習を行い、創造的な問題解決能力を育成することをねらいとしたものである。教科の枠にとらわれない学習課題を解決していくためには、自ら考え、伝え合う力を養うことがこれまで以上に重要になる。このことは人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う国語科の目標と合致しており、本校研究において国語科の果たすべき役割であると考えている。

## 2. 資質・能力の育成に当たって

### (1) 教科等として育成する資質・能力について

本年度、「本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力」を以下のように設定した。

表1 本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力

デザイン思考	文章や情報を読み解く力
イノベーターのマインドセット	持続可能な社会を志向する倫理観・価値観
より良く生きようとする態度	対話する力
多様性の尊重	論理的思考
実体験を通じて醸成される感性	批判的思考

これら十の資質・能力について考察を行った。『中学校学習指導要領』前文には、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と示されている。このことから、「より良く生きようとする態度」「多様性の尊重」「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」については、全ての教科で育成を目指す資質・能力と言える。また、「対話する力」は国語科の内容の一つである〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」において、「文章や情報を読み解く力」は「C読むこと」

において育成できることは、当然のことと言える。さらに、「実体験を通じて醸成される感性」「論理的思考」「批判的思考」は、3領域いずれにおいても、あるいは複合的に育成し得る資質・能力であると考えた。このことは、『中学校学習指導要領 国語』（以下、指導要領）に見ることができる。例えば、指導要領第3学年には「B書くこと」においても「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」「自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること」「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」が示されている。これらと同様のことは、他学年、他領域においても見ることができる。※下線は執筆者による

このように考えを進めた結果、「デザイン思考」及び「イノベーターのマインドセット」の育成に、国語科としてどのように関わっていけるのか、という点が昨年度当初課題として残った。この課題を解決しようと試みた中で、「デザイン思考」は「B書くこと」において育成できるのではないかとの仮説にいたった。「B書くこと」における学習では、読み手を意識して文章を整えたり、読み手の助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を見出だしたりする。このような学習活動や学習過程は、デザイン思考の5段階（図1）に当てはめることができそうである。

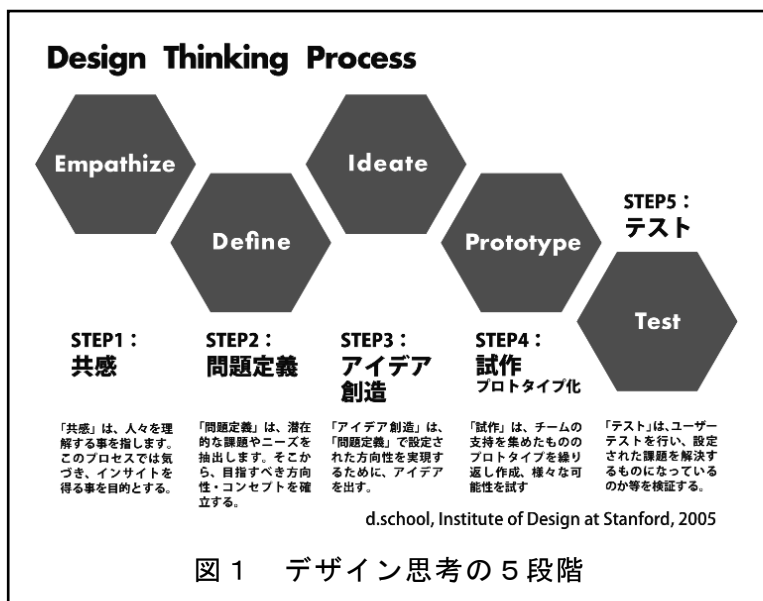


図1 デザイン思考の5段階

そこで、今年度は「デザイン思考」の育成を、本校国語科の研究の中心に据えることとした。また、昨年度は教科内での検討・分析を進めたが、今年度はSTEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトにおける検討を行った。どの単元で、どんな教材で何を考えさせ、どのようにアウトプットすることで、「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力」を効果的に育成することができるか研究し、育成する資質・能力をプロジェクト全体で測っていくことを見据えた評価など、教科等連携の在り方を検討することにした。

## (2) 関連・連携を図った教科等について

### 1年「祈りと願いの企画展」

これまで美術科と連携して、物語文から感じ取ったことを作品として表現する活動を継続的に行ってきた。今回は社会科、美術科と連携して、文化や作品にこめられた人々の思いを読み取り、作品として表現・展示する教科等横断プロジェクトに参加した。「作品の解説文を書こう」という単元を設定し、「作り手の思いを、より明確に伝えるための解説文を書く」学習活動を行った。

「根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すこと」をねらいとし、互いの文章を助言し合い、交流を通して解説文の改善を図った。このとき、「展示を見る人により深く作品を理解してもらおう」という目標を明確にして、文章を分析するための観点や、使う言葉や文章の構成を考え、解説文を再構築させることで「問題を解決するために、認識されていない内なる課題を見出し、それを解決するための最適な手立てを考えていく」

デザイン思考の育成を図った。また、展示の鑑賞者という形で読み手を明確にして、文章を考える上での視点や表現方法、互いの文章を助言するうえでの観点等の参考とし、目的に応じた書き方を考える機会を設定した。

## 2年「15秒で分かる石川県」

本プロジェクトは、社会科の地域調査の学習との横断的な学習である。社会科では、中部地方に関する学習を踏まえ、石川県の現状や良さについて学習を行う。そのまとめの段階を引き継いで、国語科では単元「15秒広告で石川のよさを伝えよう」を設定し、石川県の良さを伝える15秒広告の作成を行う。これまで、「書くこと」の学習では、自分の考えを文章にする活動を重ねて行ってきた。今回は、15秒間と短い時間を設定することで、インパクトのある分かりやすい表現について、理解を深める機会としたい。中学生に人気のある、SNS等の投稿動画では、数年前より15秒の短時間のものが注目を集めている。一見、短いように思える15秒間でも、伝えたいことを盛り込むことができることを知り、より人の目を引き、考えが伝わりやすい表現について考えることをねらいとした。また、日常生活で目にすることの多い、デジタルサイネージの形式を取り入れることで、より実生活で活用ができる表現について考えられる活動になることをねらった。

本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成に関しては、単元全体を通して、デザイン思考の育成をねらっている。伝える相手を意識して、文章を整え、試行錯誤して完成に迫る流れの中で、目的に応じた表現について考える学習を構成した。

## 3年「俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう」

本プロジェクトは、国語科、数学科、美術科、英語科との横断的な学習である。昨今、外国人留学生が日本語や日本の文化を取り入れたTシャツを着ているのを目にすることは多い。しかし、我々日本人からするとなぜそれを着ているのか、Tシャツにデザインされた言葉を見て首をかしげることもある。そこで、誰にとっても「かっこいい」と思えるようなTシャツを制作し紹介する学習を通じて、日本の素晴らしさを再確認させ、我が国の伝統・文化を愛する心情を育みたいと考えた。本校の資質・能力においては「多様性の尊重」の育成を目指した。

国語科では、「俳句の可能性」「俳句を味わう」の教材を用い、まず俳句の基本事項と鑑賞の仕方について学習を行った。美術科でTシャツのデザインをすることに意識付けをするために、選んだ俳句のイメージカラーを明示させた。また鑑賞文には、英語科で外国人留学生にTシャツをプレゼンテーションするというゴールに向けて、日本の伝統・文化や日本人のアイデンティティを踏まえ、選んだ俳句について海外の人に知ってほしい魅力をまとめさせた。選んだ俳句は、現代の日本人でも共感できる句であったり、現代の日本人であっても共感しづらい古き良き日本の原風景や感じ方が詠まれていたり、逆に時代や国に関係なく心に響く句であったりする。このような魅力を自分たちでデザインしたTシャツを通して、外国人留学生にプレゼンテーションするための一助となるよう、鑑賞文を書かせた。国語科の学習に続き、数学科では「標本調査」により外国人の趣味嗜好や実態の把握をさせ、美術科で俳句の魅力が伝わるようなデザインをさせ、英語科ではでき上がったTシャツを外国人留学生に紹介を行った。

### 3. 成果と課題

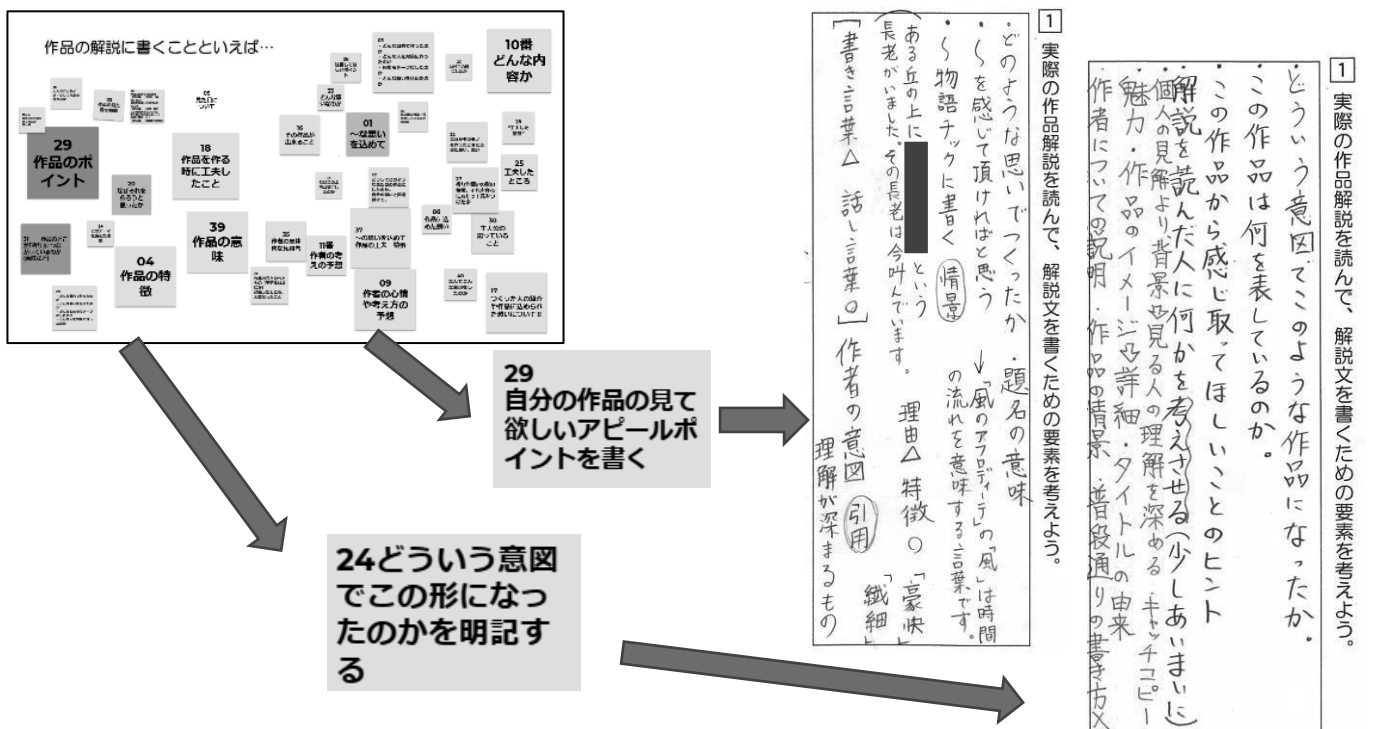
#### (1) 第1学年

1年生では、「本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力」における「デザイン思考」の取組として、「対話・交流を通じて自分の思いや考えを確かなものにする」と重点を置き、実践に取り組んだ。

「祈りと願いの企画展」プロジェクトでは、社会科や美術科で学び、制作した「祈りや願い」を表す作品について、鑑賞者に提示する解説文を書く活動を行った。この実践では、作品の鑑賞者に対し、制作した自身の思いや意図をより明確に伝えるための表現や書き方について考えることを意図している。生徒らは解説文を書くにあたって「鑑賞者にどんな印象や気づきを与えたいか」「鑑賞者が解説文に求めるのはどんな情報か」といった、文章を読む対象や書くべき内容に対する理解を深めていく必要があり、そのための手順として「デザイン思考」のプロセスを踏まえることとした。

活動の導入として、解説文を書くための必要なことは何かを、県内の美術館や制作した画家本人による作品解説の分析を行った。この活動は、「デザイン思考」における「共感」にあたる。生徒は、作品解説が読み手に与える効果にまで考えを広げ、書くために必要な内容や表現を作品解説から読み取り、自分の解説文の構成を見直したり、鑑賞者が求める情報について考えたりすることができた。

作品解説の分析を通しての、生徒が考える解説文の要点の変化



#### ○解説文の分析による生徒の変容

生徒 N (分析前) (解説文には)自分の作品の見てほしいアピールポイントを書く。

→(分析後) 作者の意図について理解が深まるように、話し言葉を使って書く。

生徒 T (分析前) どういう意図で(作品が)この形になったのかを明記する。

→(分析後) 作品から感じ取ってほしいことのヒントを示し、少しあいまいに書くことで読む人に考えさせる。

解説文が読み手に与える印象や効果を考えたうえで、「制作者として読み手に伝えたい内容は何か」を明確にし、「伝えたいことを効果的に表す表現は何か」を検討する活動を行った。これらは、「デザイン思考」における「問題定義」と「アイデア創造」を意図している。生徒らは、書き手と読み手両方の視点から、解説文に使いたい表現用語集や作品解説から探し、吟味する姿が見られた。読み手を具体的に設定した活動により、「書くこと」エの「読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること」や「知識及び技能」ウの語彙の指導事項を達成することができた。

伝えたい内容を表す表現を吟味する生徒の様子

自分の願いをより印象的に伝えるために、

- ・「願い」に替わる表現として、「望み」「祈り」「希望」など。
- ・「願いを込める」や「イメージする」の類語を検討している。

寄せ集める ↓ 吸い寄せる  
 イメージ ↓ 思い描く・想像  
 願い ↓ 望み・祈り・希望  
 願いを込める  
 ↓ 希望を話す  
 ↓ 夢を描く  
 ↓ 思いを託す  
 念願する  
 切に願う  
 待望する

みる人の理解が深まる  
 情景が伝わる表現  
 ↓ 絵の説明 情景の説明  
 ↓ 広大な大地の上にいる中野の  
 様子がかかっている  
 ↓ とこのところを  
 ↓ とどろいてほしいです  
 ↓ 豪華快  
 ↓ 緻細  
 ↓ カ強く

- ・作品の情景が伝わる表現を探し、分析してきた解説文から効果的な表現を参考に抜き出している。
- ・「強い」印象を与える言葉を探し、解説文の印象に合わせて、カタカナ語から漢語や和語に切り替えている。

この後生徒らは、「デザイン思考」における「試作」「テスト」の取組として、解説文の下書きを行い、自分たちが制作した「祈りと願いの造形」の制作物とあわせての鑑賞を行い、解説文による印象の変化を確かめる活動を行った。作品単体での印象と、解説文を合わせて鑑賞した際の印象を比べることで、自らが意図した読み手の変化を達成することができているか、読み手が作品に対して知りたいと考えている情報が解説文によって補足できているかを確認し、お互いに助言を行った。展示を見る人により深く作品を理解してもらうだけでなく、読み手である鑑賞者の視点を取り入れながら自分たちの文章を吟味し、助言し合うことで、「デザイン思考」のプロセスを体験しながら、文章をまとめることができた。また、読み手の立場に立って文章を整えることや、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすといった、



国語科における「書くこと」の指導事項を、他教科の知識や視点を交えた活動により育成する実践とすることができた。

解説文を読む前との印象を比べ、作品の裏側に描かれた「等」の漢字に言及したほうが、鑑賞者にも伝えたいことが伝わると助言している。

本はこぼってある ↓ 本関係の読書？  
 手に何かもってる ↓ 勉強？  
 書いて書いてあつたのかあ！！強い願いやこの世界の現状をしゃんけん人に語ってあり、見てる側もしんけんに考えてしまう。  
 真剣に現状を説明しているところが、見ている側も考えさせられての等という漢字を見せればもういいと思うので、ウラも見てみるコメントをつけてもいいと思います！！

また今回のプロジェクトでは、解説文で伝えるために学習したことを、社会科・美術科での鑑賞やレポートまとめの際において、再度活用するという機会を設定した。国語科での学習の成果を教科の時間だけでなくプロジェクト全体で見取り、評価していくための場面を、他教科と連携しながら計画的に設定し検証していくことが今後の課題と考える。



や完成版の動画やワークシートより評価を行った。また、「デザイン思考」に関しては、全体の振り返りより、活動当初の思いを達成することができたのかどうかを見取った。

動画の試作版の作成 STEP 4：試作（デザイン思考の5段階）

[生徒 W の作品]

[生徒 M の作品]

このあたりのレイアウトは、印刷業者さんに相談します。

「まだ」15歳？  
「もう」60歳？

夢を叶えるのに、  
年齢なんて関係ない!!

金沢市では若者・シニア  
年齢関係なく、  
起業・開業  
を考えている方々を  
支援いたします。

あなたに合った支援を。  
夢と一緒に叶える  
金沢市

貴方の  
如雨露に  
なりたい。

のびのびと育ち、  
たくましく育ち、  
地域に深く広く根ざした

推敲後の動画をクラスで共有 STEP 5：テスト（デザイン思考の5段階）

[生徒 W の作品]

[生徒 M の作品]

最も伝えたい  
「年齢」にこだわって、改善

「まだ」15歳だから...?  
「もう」60歳だから...?

現実を見るな。  
現実は創れ。  
現実を作るのに、  
年齢なんて  
関係ない。

金沢市は若者、シニア関係なく  
起業・開業を考えている  
方々を支援いたします。

いつになっても夢は叶えられる  
夢を現実。  
金沢市

例えがわかり  
にくいという  
アドバイスを  
踏まえて改善

貴方の  
如雨露に  
なりたい。

植物は水で大きくなる。  
子は親の愛情で大きくなる。

能美市は  
水と愛情が入る  
「じょうろ」になります。

第3・4時 二生徒の作品の変化

完成版の動画をクラスで共有している際に、社会科と連携した「15秒でわかる石川県」のプロジェクトのまとめとして自分たちが作った動画の効果を実際に試してみたいという声が多く聞かれた。はじめの設定では、校内のディスプレイで表示するところまでを準備したのだが、実際に15歳から22歳の若者に動画がどう評価されるのかを試してみたいという意見もあり、生徒とともにそのような機会を探す



ことが、より実社会に開かれた学習となる契機となるであろうと考えている。

本単元全体のワークシートにおいて、活動を通してできるようになったことや、今後できるようになりたいことについての記述が以下のようにあった。

**【できたこと・できるようになったこと】**

- ・今までは、いろいろな広告をぼーっと見ていたけれど、作ったひとがどんなことをねらったのか考えるようになった。
- ・見る人の立場に立って、キャッチコピーを考えることができた。
- ・15秒という短い時間で、まずは何を伝えたいか吟味した。
- ・15秒を意識して、どれくらいのことが伝えられるのかの量を考えた。
- ・類語辞典を使って、使う言葉を試行錯誤した。
- ・短い言葉でずばっと伝える工夫ができた。
- ・いろんな広告を見て、目的を考えることができた。
- ・先生がよく言う「まとめて言うとどんなこと？」「例えばどんなこと？」「ひと言で言うと？」ということ、自分でしっかり考えることができた。
- ・押韻や繰り返しなどの、表現技法の効果がよくわかった。

**【できなかったこと・今後できるようになりたいこと】**

- ・どこかのデジタルサイネージに、出して反応を見てみたい。
- ・キャッチコピーのコンテストとかに出したらおもしろいかな、と思った。
- ・文字だけじゃなくて、イラストや写真とか、音楽なんかもつけたらもっと本格的になると思った。
- ・〇〇さんのキャッチコピーが衝撃的で、自分もそんなのを作りたかったけど、言葉が思いつかなかった。
- ・こんなキャッチコピーだけで、人の考えを変えたりできるのか、ギモン。

今回、設定した教科としてのねらいや「デザイン思考」の育成に関しては、「できたこと・できるようになったこと」にあるような記述等より、おおむね達成できたと考えている。一方、「できなかったこと・今後できるようになりたいこと」にあるように、学習活動と実社会とのつながりをより大切にすることを考えるためには、活動を教科・学校での学習で終わらせるのではなく、実社会・実生活とつなげていくことが欠かせない。今回の学習では、国語科としてのねらいを明確にするため、文字での表現にこだわり、表現の内容以外は、文字サイズとフォントのみ工夫してもよいとしたが、実社会の広告等では、文字以外にも、画像やアニメーション、音楽等の工夫が盛り込まれている。よりよい作品を作るために、文字以外の表現にも、いろいろな工夫を凝らしたいという生徒の思いは、自発的・意欲的に活動に取り組む姿勢からなるものであり、大切にしたい思いである。今後、教科としてのねらいを明確に持ちつつ、society5.0 で必要となる資質・能力を育成し、生徒の学ぶ意欲を伸ばす効果的な学習の構築を目指すためには、他教科等との連携の在り方について、さらに検討を重ねなければならない。



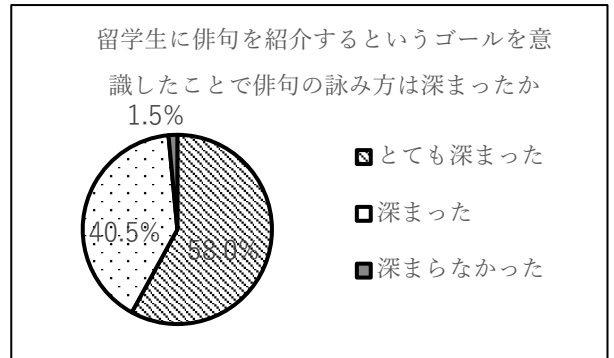


【教科横断型 STEAM 教育に関わるもの】

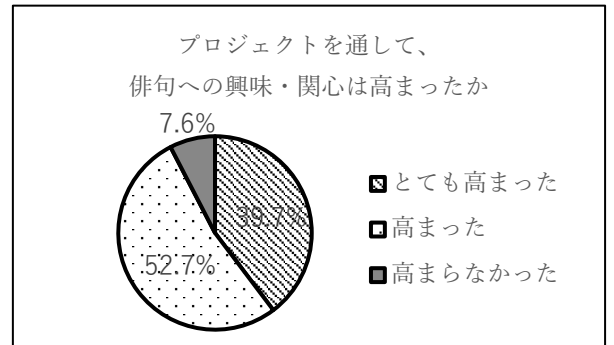
- ・一つのプロジェクトに何教科も関わることで、教科のつながりを感じ、どの教科も将来役に立つんだなということが実感できた。
- ・複数の教科を使ってプロジェクトを進めていくのは難しかったけれど、こんな場面に今まで習ったことが活かしていけるんだなと思った。
- ・複数の教科が合わさり一つの発表を作るという初めての経験だったので、すごく面白かった。
- ・複数の教科で同じ目的のために活動することで、視野が広がったと思うし、いろいろな観点から考えることができた。

アンケートから今回の取り組みを通して、俳句に対する興味・関心が高まり、より深く選んだ俳句について調べたり、文章にまとめたりしていたといえる。しかし、その一方で、「正直、国語で鑑賞文を書いた意味がよく分からなかった。」や「それぞれの科目の先生間でしっかり話し合っしてほしいなと感じた。」と言った意見もあった。これらの言葉を重く受け止めねばならない。解決策の一つとして、同じ資質・能力でプロジェクトを実施することも考えられる。今回のプロジェクトでいえば、「デザイン思考」での実施も可能であった。「デザイン思考の5段階」に当てはめれば、図1のようになるだろう。ただし、この場合国語科は、「文章や情報を読み解く力」「多様性の尊重」を育成しながら、鑑賞文を「書く」活動において「デザイン思考」の育成を図ることになる。となれば、英語科のプレゼンテーションの前段階として日本語でプレゼンテーションを行い、そこでは「対話する力」を育むことになるだろう。しかし、あくまでも今回のプロジェクトを「デザイン思考」でブラッシュアップし、4教科が取り組むか否かについては、それぞれの教科の思いやねらい、そして学校全体の研究に関わる。したがって、このことについては課題として残すことにしたい。

グラフ1



グラフ2



グラフ3

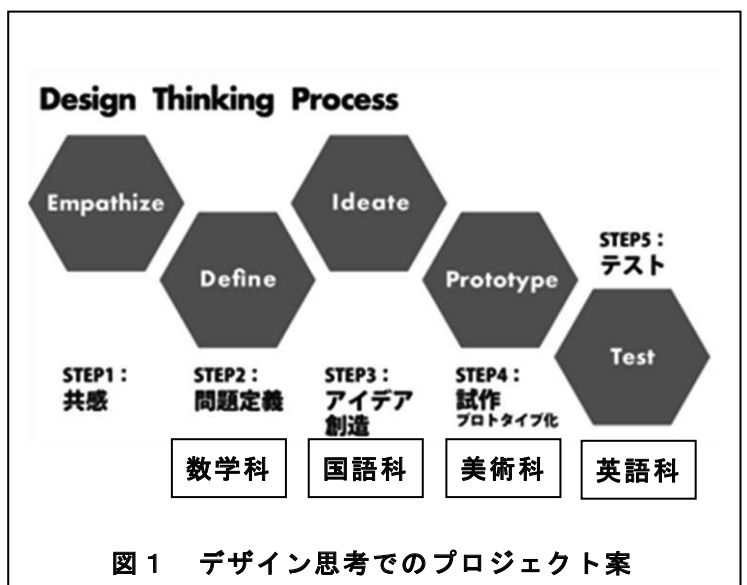
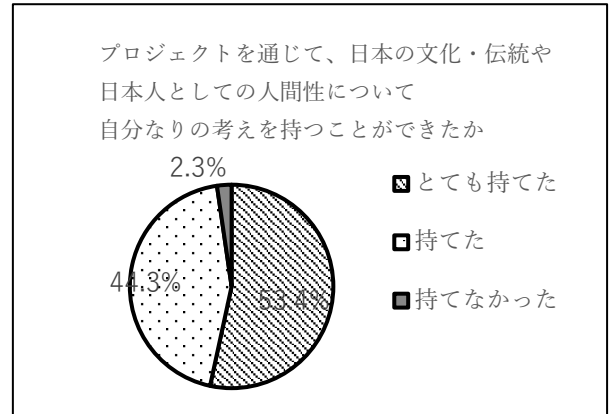


図1 デザイン思考でのプロジェクト案

#### (4) おわりに

今回 STEAM 教育の実践として、複数教科による教科等横断的なプロジェクトを作成し、その中で実社会での課題解決に生かした学習内容の実現を期して、それぞれの学年における研究実践で資質・能力の育成を図った。プロジェクトにおける国語科としての立ち位置は様々で、実社会での課題に対する問題提起を行うこともあれば、他教科における学びをふまえて自らの考えを表現する活動も行われた。総じて、国語科の目標である「人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」ことを、教科の枠にとらわれない課題や題材において実現できたことが成果と考える。例えば「話すこと・聞くこと」における根拠の適切さや論理の展開に注意して自分の考えを示すことについては、国語科の中で実践・育成することはもちろん、プロジェクトにおける他教材の学習活動でも関連づけ、活用していくことで、ねらいとする知識や技能のより深い定着を図ることができた。

また、複数教科による教科横断的なプロジェクトは、生徒の学習に対する意欲を高め、活動に対する創意工夫を引き出すことも、実践の中で確認できた。それぞれの教科で学んだことを生かすだけでなく、解決すべき課題を見すえて、更に工夫できる点はないか、異なる手法やアイデアを活動に組み込むことはできないかと試行錯誤する生徒の姿が見られ、創造的な問題解決能力の育成にも有効であったことが見て取れた。

一方で、プロジェクト全体における資質・能力の評価には研究の余地があると考えられる。「書くこと」を例に挙げると、国語科はもちろんそれぞれの教科で自分の考えを書き表す場面がある。その中で、国語科や他教科の活動を通じて、生徒の「書くこと」の力にどのような変容が見られたか。「書くこと」についての国語科での学びを他教科でも生かすことができているかを見取るには、プロジェクト全体を見通した指導の計画や評価の工夫が必要であると考えられる。

また個別最適化について、総論では「個別最適化した学習（各教科等）と協働的プロジェクト型学習（STEAM 教育）を二本柱とし、往還させる学習のシステムを構築する」とある。プロジェクト型学習が一定の成果を見せたところで、今後は特異な才能を有する生徒をどのようにして見取り、伸ばしていくのか教科としての関わり方を考えていく必要がある。個別最適化学習の在り方については、次年度以降の研究の課題である。

1年 単元名「作品の解説文を書こう」 プロジェクト名「祈りと願いの企画展」

単元計画（3時間扱い）本時は3時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	<p>■解説文の特徴を理解する。</p> <p>①学習の見通しを持つ。</p> <p>②美術作品の解説文を読み、背景や観点など解説文の要素を確認する。</p> <p>③作品について最も伝えたい内容を決め、その表現を考える。</p>	<p>○事象や行為、心情を表す語句に着目し、語彙ノートに書き留めている。【知】</p>	<p>「デザイン思考」</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
	2	<p>■解説文を書く。</p> <p>①解説文の構成を考える。</p> <p>②解説文の下書きを書く。</p> <p>③読み手の立場に立って文章を整える。</p>	<p>○学習課題に沿って、自分の思いが伝わる文章を書こうとしている。【態】</p>	
	3 本時	<p>■解説文を読み合い、お互いに助言し合う。</p> <p>①解説文のねらいを確認し、助言すべき内容をつかむ。</p> <p>②解説文を読みながら、作品を鑑賞する。</p> <p>③鑑賞した内容を基に、助言し合う。</p> <p>④学習を振り返る。</p>	<p>・作品のみを鑑賞したときと、解説文とあわせて鑑賞したときの印象を比較し、その効果やねらいの達成について考えるよう促す。</p> <p>○読み手からの助言を踏まえて、自分の解説文のよい点や改善点を見いだしている。【思】</p>	
2	後日	<p>①解説文を清書する。</p> <p>②解説文を作品とともに展示する。</p> <p>③鑑賞会を行い、プロジェクトを通しての振り返りを行う。</p>	<p>○読み手に伝わる解説文について考え、自分の思いや意図を伝えようとしている。【態】</p>	

# 実践事例

教科名「国語科」・学年「1年」

授業者	谷口 仁	授業クラス	1年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
祈りと願いの企画展		社会科「身近な地域の歴史」 美術科「祈りと願いの造形」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「デザイン思考」		読み手からの助言を踏まえて、自分の解説文のよい点や改善点を見いだすことができる。 【思考・判断・表現】	
<b>STEAM教育の視点</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科、美術科の学習を経て制作・展示する「祈りや願い」を主題とした作品に、自分の意図を伝えるための解説文を書く活動を行う。</li> <li>・この学習では「読み手に与える印象や効果を基に助言や推敲を行う」ことをねらいとしている。社会科、美術科で学んだ各時代の人々の思いや意図など、各教科で学んだことを基に解説文として表現し、読み合う際の規準とする。これにより複数の教科等の資質・能力や見方・考え方の活用を図る。また、読み手の印象や求めている情報を基に、自分の表現を見直し、改善方法を考えていくことで「デザイン思考」の育成を目指す。</li> <li>・展示の解説文という目的を踏まえた文章表現や構成の工夫まで考えさせたい。そのために、実際の展示解説などとの比較を行い、その印象や特徴についても着目させる。</li> </ul>			
<b>本時の授業のねらい</b>			
鑑賞する人に与える印象を考えて、解説文を読み合いお互いに助言し合う。			
<b>授業の流れ・活動等</b>			<b>時間</b>
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。			3
鑑賞する人に与える印象を考えて、解説文を読み合いお互いに助言し合おう。			
2. 解説文のねらいを確認し、助言すべき内容をつかむ。			7
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説文が作り手の意図やテーマ、見どころなど、自分の意図を明確に伝えるためのものであると同時に、鑑賞する人に与える印象や鑑賞者が欲する情報を踏まえているかどうかを観点として確認する。そのための表現や文章構成ができていないかをあらかじめ押さえておく。</li> </ul>			
3. 解説文を読みながら、作品を鑑賞する。			15
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のみを鑑賞した時と、解説文と合わせて鑑賞した時の印象を比較し、その効果やねらいの達成について考えるよう促す。</li> </ul>			
4. 鑑賞した内容を基に、助言し合う。			20
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説文によって印象が変わった点や理解が深まった点について話し合い、書き手の意図が伝わったか、あるいは伝えるためにはどう改善すべきかを助言し合うよう促す。</li> </ul>			
5. 本時の振り返り。			5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・助言を基に自分の文章について考えることができたか、鑑賞者の視点で解説文の内容や表現について考えられたか、適切な助言ができたか等について、活動を振り返り、自己評価する。</li> </ul>			

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
	事前	気になる「キャッチコピー」を探し、 一人一枚の画像をクラウドで共有する。		
1	1	■広告の特徴や意味について知り、伝えたいことを整理する。 ①デジタルサイネージやキャッチコピーなどの特徴について知る。 ②石川県について、自分が伝えたいことを整理する。	○情報と情報との関係に注意して、伝えたいことを整理している。 【知】 ・商用のデジタルサイネージを提示し、その特徴を理解させる。 ・単元の学習の見通しを持たせる。	「デザイン思考」
	2	■15秒広告（スライド）を考える。 ①伝えたい内容を15秒で伝えられるような文章を考える。 ②2～3枚のスライドにまとめる。	○目的を意識して、自分の考えが伝わるように表現の仕方を工夫している。【思】 ・キャッチコピー、ボディコピーを思い出させ、読む人の目を引き、伝えたいことを伝えるための文章になるよう意識させる。 ・今回は、言葉の表現に重点を置くことを伝え、無地のスライド2～3枚で表現することを伝える。 ・文体、表現技法、語句などを工夫し、読み手を意識した表現になるよう考えさせる。	
	3 本時	■作成した15秒広告（スライド）を、班で紹介しアドバイスし合う。 ①班員の広告を見て、アドバイスをする。 ②アドバイスを参考に推敲をする。	○目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章を整えている。【思】 ・実際の広告の場面を意識して、読み手への伝わりやすさについて、考えさせる。	
	4	■完成した15秒広告（スライド）を班で発表し、代表作品を決める。 ①「目を引いたか」「内容が伝わったか」の二点について、相互評価をする。 ②完成した作品を見て、学習を振り返る。	○作品の共有を通して、自分の考えが伝わる文章を整えようとしている。【態】 ・友人の作品のよい点や改善点を考えながら、自分の作品について振り返るよう促す。	↓
	後日	校内二か所の電子掲示板を用いて、クラスの代表作の15秒広告（スライド）を公開する。		



# 実践事例

教科名「国語科」・学年「2年」

授業者	橋本 正恵	授業クラス	2年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
15秒で分かる石川県		社会科「身近な地域の調査」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「デザイン思考」		目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章を整えることができる。 【思考・判断・表現】	
STEAM教育の視点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の学習「身近な地域の調査」で学んだ「石川の良さ」について、後輩（中学校一年生）に伝わるような文章（15秒広告）を作成する。</li> <li>・近年、見かけることの多くなったデジタルサイネージの形式を採用し、「15秒でわかる石川県」の文章（広告）を作成する。キャッチコピーやボディコピーを取り入れ、どのような表現にすれば、読み手の目を引き、読み手に自分の考えが伝わりやすくなるのかを検討、試行錯誤し、作品を完成させる。クラスの代表となった作品は、校内の電子掲示板を使い、実際にデジタルサイネージとして、掲示する。文章（広告）が生み出す効果を実体験する機会としたい。</li> <li>・社会生活で活用できる文章表現について、作成を通して、理解を深める。</li> </ul>			
本時の授業のねらい			
作品の共有を通して、「読み手の目を引く」「考えが伝わる」の二点について、互いにアドバイスを行い、自分の考えが伝わる文章を整える。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。			5
読み手の「目を引く」「考えが伝わる」表現を目指して、アドバイスし合い、推敲をしよう			
2. 「15秒広告」を紹介し、アドバイスをし合う。			25
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人班を作る。</li> <li>・発表者はタブレットの画面に、「15秒広告」を映し、作品を紹介する。</li> <li>・見ている人は、読み手の「目を引いているか」「考えが伝わっているか」の二点について、アドバイスを行う。</li> <li>・5人分のアドバイスの終了後、班員すべての作品を比較して、どのような広告が、より目的を達成しているのかについて、考えを出し合う。</li> <li>・各自の作品についての、感想やアドバイスをワークシートに記入する。</li> </ul>			
3. アドバイスを参考に、より良い「15秒広告」になるように推敲をする。			15
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを用いて、推敲を行う。</li> <li>・どんな効果をねらって、どのように改善をしたのかをワークシートに記入する</li> </ul>			
4. 本時の振り返り			5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手の「目を引くポイント」, 「考えが伝わるポイント」について、考えたこと、分かったことをまとめる。</li> <li>・完成に向けて、工夫したことをまとめる。</li> </ul>			
<p>「まだ」15歳？ 「もう」60歳？</p>		<p>夢を叶えるのに、 年齢なんて関係ない!!</p>	
<p>金沢市では若者・シニア 年齢関係なく、 起業・開業 を考えている方々を 支援いたします。</p> <p>あなたに合った支援を。 夢と一緒に叶える 金沢市</p>			

3年 単元名「外国人に紹介したい俳句の世界」

プロジェクト名「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」

単元計画（5時間扱い）本時は5時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	■俳句についての理解を深める。 ①プロジェクトについて理解する。 ②「俳句の可能性」の5句について、俳句の基本事項と、情景や心情の読み取り方について理解する。	○俳句の形式や表現技法などについて理解し、俳句を味わっている。【知】 ・外国人が日本語の T シャツを着た様子を示し、日本の文化や伝統の良さを正しく伝えるためのプロジェクトであることを伝える。	
	2	■俳句に詠まれた情景や心情を読み取る。 ①「俳句を味わう」からグループで1句を選び、言葉や表現に注目し、情景や心情を読み深める。 ②読み取った情景や心情を踏まえ、選んだ俳句を紹介するスライドを作成する。	○俳句に表れたものの見方や心情について考えながら俳句を読み、考えたことを言葉を選びながら、進んで伝えようとしている。【態】 ○語句の意味を理解したり、情景や心情を喚起する効果的な語句に着目したりしている。【知】 ・作者や俳句について、書籍やインターネットを使い調べさせグループで読み取りを共有させる。	
	3	■選んだ俳句について紹介する。 ①選んだ俳句について、基本事項（作者、季語、表現技法）と読み取った情景や心情についてスライドを使って紹介する。	○語句の選び方や表現の仕方に着目して俳句を読み、評価している。【思】 ・俳句の特徴をイメージカラーで表現させ、T シャツ制作を意識付けさせる。	
	4	■俳句を短冊に書く。 ①行書と、行書に調和する平仮名で俳句を書く練習をする。 ②体裁を整えて、短冊に筆ペンで書く。	○文字の大きさ、配列などについて理解し、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を意識し書いている。【知】 ・文字の大小や配置なども考慮することが全体の調和につながることを伝える。	
2	5	■俳句をグループで選び、読み取ったことをグループで共有し、鑑賞文に書く。 ①T シャツにデザインして外国人に紹介したい句を探し、読み取った情景や心情について、グループで交流する。 ②外国人に紹介することを意識し、鑑賞文に書く。	○俳句に表れたものの見方や心情について考えながら俳句を読み、考えたことを言葉を選びながら、進んで伝えようとしている。【態】 ○俳句を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。【思】 ・感じたことや想像したことだけではなく、そう感じた表現や特徴を明示させる。 ・昔の日本の良さか、現代にも引き継がれている日本の良さか、あるいは今もある日本の良さか、万国共通の良さかを考え、鑑賞文にまとめさせる。	「多様性の尊重」

# 実践事例

教科名「国語科」・学年「3年」

授業者	松原 美佳	授業クラス	3年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう		数学科「標本調査」 美術科「Tシャツ文字のデザイン」 英語科「Project 2」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「多様性の尊重」		俳句を詠んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 【思考・判断・表現】	
<b>STEAM教育の視点</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の良さが伝わる俳句をTシャツのデザインで外国人に伝えることを意識させ、俳句から情景や心情を読み取らせていきたい。そのために、語句の選び方や特徴、表現技法等に注目させる。</li> <li>本プロジェクトは、まず国語科がTシャツのデザインの題材となる俳句の学習を行い、次に数学科が外国人の嗜好や日本に対するイメージを標本調査において明らかにし、美術科が国語科と数学科での学習を踏まえTシャツのデザインをし、英語科がデザインされたTシャツを外国人にプレゼンテーションする。単なる俳句の読み取りではなく、情景や心情の読み取りを通じて改めて感じた日本の素晴らしさをデザイン化し紹介するというゴールを設定することで、相手意識を持って俳句を深く読み取り、鑑賞文を書くことができると考える。</li> </ul>			
<b>本時の授業のねらい</b>			
俳句から読み取った情景や心情をグループで共有し、その俳句から日本の良さや日本人のアイデンティティについて考えを深め、鑑賞文に書く。			
<b>授業の流れ・活動等</b>			<b>時間</b>
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。			2
日本の文化や伝統の良さを正しく伝えるためにTシャツのデザインとしてふさわしい俳句を探し、その鑑賞文を書こう。			
2. Tシャツにデザインして外国人に紹介したい句を、書籍やインターネットを活用し、グループで1句選ぶ。 ・複数の書籍などを読み、自分の感じ取った情景や心情に近いものを探すように伝える。			8
3. 情景や心情について、グループで読み取った交流する。 ・感じたことや想像したことだけでなく、そう感じた表現や特徴を明らかにして、読み取りを交流させる。			15
4. 外国人に紹介することを意識し、鑑賞文に書く。 ・外国人に紹介するにあたって、古き良き日本の良さなのか、現代日本にも残る日本の良さなのか、あるいは日本人のアイデンティティなのか、外国人にも共感できる日本の良さなのかを考え、鑑賞文に書くことを意識させる。			23
5. 本時の振り返り ・この時間に鑑賞文を書けない場合は、夏休み中の宿題とする。			2